令和５年　10月 10 日

令和５年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和５年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和5年4月18日(火)

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語，数学，英語，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語　　129人

②　算数　　127人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，算数の２教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

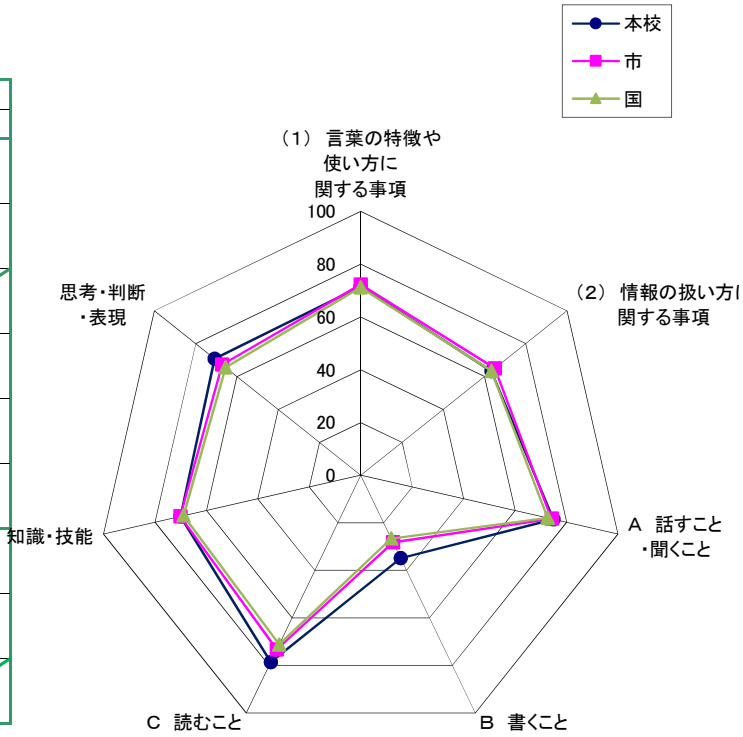
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中央小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	71.6	72.3	71.2
	（2） 情報の扱い方に関する事項	63.3	65.0	63.4
	（3） 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	74.9	74.2	72.6
	B 書くこと	34.9	28.2	26.7
	C 読むこと	78.6	73.3	71.2
観点	知識・技能	70.1	70.2	68.9
	思考・判断・表現	70.8	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

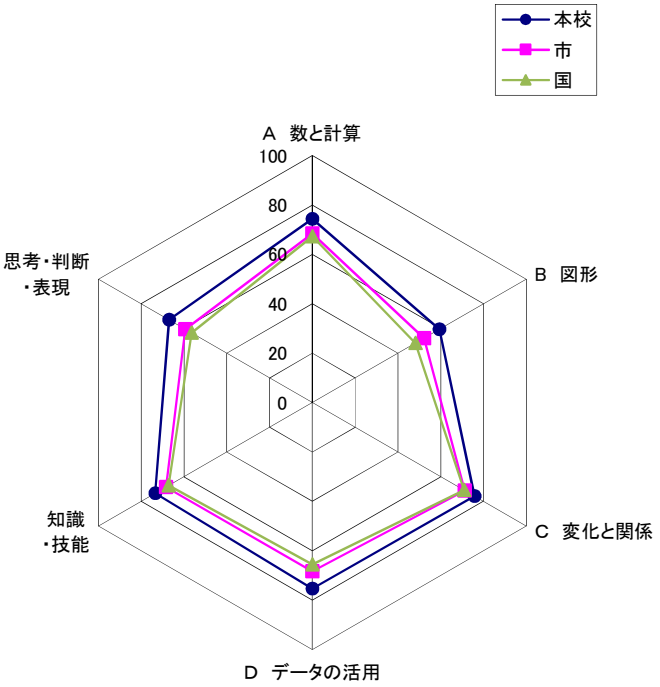
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
（1）言語の特徴や使い方に関する事項	○この領域の平均正答率は全国より高い。 ○文章の中で正しく漢字が使えるかを問う問題では，いずれも7割程度の正答率であった。 ○話し言葉と書き言葉の違いを理解しているかを問う問題の正答率は88.5%と，よく理解している。	・漢字や言葉については，文章の中で使えるように，練習や家庭学習などを継続し，今後も指導していく。
（2）情報の扱い方に関する事項	○この領域の平均正答率は全国より高い。 ○正答率は87.7%であり，よく理解しているといえる。	・引き続き伝統的な言語文化に関する指導を行っていく。また，言語の特徴やきまりについても，繰り返し指導していく。
A 話すこと・聞くこと	○この領域の平均正答率は全国より高い。 ○話し手が伝えたいことを捉える問題においては，正答率が88.5%とよく身に付いていた。	・国語だけでなく様々な教科において，話し合う機会を設けることで，話すことや聞くことの力を伸ばしていく。
B 書くこと	○この領域の平均正答率は全国と同程度であった。 ●話合いをもとに文章のよさを見付ける問題の正答率は43.8%であった。全国平均よりは高いものの半数以上ができていないため，さらなる向上を目指したい。 ●文章を整える問題では正答率が全国平均よりも5ポイント以上低かった。文章の構成に着目して，文を整えることが課題である。	・自分の考えを書く機会を意図的に増やすことで，書くことに慣れるようにする。また，書き方の型や手本を見せたり，児童同士で文章を推こうし合ったりすることで，書く力を伸ばしていく。
C 読むこと	○この領域の平均正答率は全国より高い。 ○いずれの問題の正答率も7～8割であった。特に，物語の全体像を捉える問題の正答率は82.3%とよく理解していた。	・読む単元においては，引き続き丁寧な読み取りや中心となる文や語を捉える指導を行う。 ・叙述をもとに心情を読み取る問題の正答率がやや低かったため，人物の気持ちや行動に着目しながら，場面ごとの心情の移り変わりを捉えられるように指導する。

宇都宮市立豊郷中央小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A　数と計算	74.4	68.4	67.3
	B　図形	59.4	52.2	48.2
	C　測定			
	C　変化と関係	75.8	71.2	70.9
	D　データの活用	75.3	68.3	65.5
観点	知識・技能	73.5	68.4	67.2
	思考・判断・表現	67.0	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A　数と計算	○この領域の平均正答率は，全国より8ポイント以上高い。 ○（151＋49）×3と151×3＋49×3を計算したり，分配法則を求める問題では，児童の正答率は84.3%で，全国や県より10ポイント以上高かった。	・わり算の筆算について，図を基に，各段階の商の意味を考える問題の正答率がやや低かった。今後は，計算の過程などを説明する活動を通して，能力の向上を図る。
B　図形	○この領域は昨年度より，十分な定着が見られる。問題の平均正答率は，全国より9ポイント以上高い。 ○テープを折ってから切るとできる三角形を正三角形にする方法を答える問題では，全国の平均と比べて正答率が高かった。しかし，正答だった児童の割合は，31.5%と，全体の1/3の割合と低いので，さらに向上を図りたい。 ○三角形の面積の性質についての問題への正答率は，全国の平均と比べて20ポイント以上高かった。	・自分で問題を解くだけではなく，論理的に相手に説明する力を身に付けさせていく必要がある。そこで，ペアやグループでの説明活動を増やして，友達との意見のやり取りによる学び合いの機会を増やし，説明する力を高めていく。
C　変化と関係	○この領域の平均正答率は全国より高いが，他の領域と比べると正答率は低い状況にある。 ○伴って変わる二つの数量の関係についての問題では，割合の関係を理解し，表の中の適切な数を求めることができた。 ●百分率で表された割合についての理解を図る問題では，児童の正答の割合は全国や県の平均より3ポイント以上高かった。しかし，正答率が49.6%と低い結果になってしまったので，向上させる必要がある。	・割合では，単位量当たりの数を求める問題の誤答が多い。自分で数直線や図をかいて問題に取り組む活動を今後はより一層取り入れ，能力を向上させる必要がある。
D　データの活用	○この領域の平均正答率は全国より9ポイント以上高い。 ○示された表かグラフを読み取る問題では，目的に応じてデータの特徴を捉え回答することができた児童の割合は全国や県より7ポイント以上高く，よく身に付いていることが分かる。	・与えられた表やグラフからどのようなことが分かるかを話し合ったり，必要なデータを読み取ったりする活動を継続して取り入れ，データを読み取る力や活用する力をさらに向上させていく。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○国語，算数，英語の学習についての質問では，「その教科の学習が好きか」に対しての肯定回答割合は県平均を上回っていた。「国語，算数の授業内容がよく分かるか」についても，国語で93.2%，算数で90.9%の児童が肯定的に回答していた。「学習した内容について，分かった点やよく分からなかった点を見直し，次の学習につなげることができている」に対する肯定回答割合も県平均を上回っていた。これらのことから児童は学習に興味関心があり，今後に向けての意欲も高いことが分かる。これからも深い学びのある授業展開を工夫していきたい。

○授業の様子についての質問では，「学級の友達との間で，話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている」の問いに対する肯定回答割合が高い。それは，国語や道徳，学級活動など授業の中でも，話し合う活動を取り入れ，互いの意見のよさに目を向けたり自分の考えを伝えたりする活動を通して，児童が主体的に話合い活動に取り組めていたことによると思われる。今後も対話を取り入れた活動を授業の中に取り入れ，自分の考えを深められるようにしていきたい。また，全体の中でも自分の考えを発表し伝えることができるような支援をしていきたい。

○家庭学習については，「自分で計画を立てて勉強しているか」の肯定回答割合は82.7%で，県平均を上回っている。今後も中学生に向け，自分で計画を立て，工夫して取り組んで行けるよう取組を紹介するなどし，家庭学習への意欲を更に高めていきたい。読書についての質問では，「読書は好きか」という質問への肯定回答割合は81.2%と県平均より高い。今後は，さらに読書への関心・意欲を高めるための手立てを考え実践していきたい。

○生活の様子についての質問では，寝る時刻，起きる時刻，朝食の生活習慣に関する質問の肯定回答割合が高い。各家庭での意識の高さが伺える。また，「自分には，よいところがあるか」「将来の夢や目標があるか」の質問の肯定回答割合も県を上回り，自己肯定感が高いことが分かる。また，「学校に行くのは楽しい」と回答した児童も95.5%と高かった。家庭生活・学校生活ともに，安心し，満足しているようだ。保護者の協力や学校生活の充実が，学習に向かう原動力となっていると考えられる。今後も，保護者と連携を図りながら児童が，充実した学校生活を送れるようにしていきたい。

宇都宮市立豊郷中央小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
話す・書く力の向上	1根拠や理由を明らかにし，順序だてて端的に話したり書いたりする指導 2字数や段落など条件に合った書き方や文章の中で適切に漢字が使えるような指導 3授業や授業以外，家庭学習等で，自分の考えを表現する活動の工夫	・国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」のいずれの領域も県の正答率を上回る結果であった。「書く」の正答率34.9%は，全国の平均より7.6ポイント高く，昨年度は県の平均を下回っていたことを考えると，向上が見られた。これは，国語の授業や様々な活動の中で，児童同士が話し合う活動やICTを活用して友達の考えを参考にしながら自分の考えをまとめる活動をたくさん取り入れてきた結果だと思われる。今後は，文章の構成に着目して，文を整えて書くことを意識させ，児童に話す・書く力をつけるため引き続き指導していく。